

平成 30 年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人兵庫教育大学

1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応えるため、「現職教員に対する専門職として高度な専門性と実践的指導力の育成」「実践力と人間性に優れた新人教員及び心理専門職の養成」「学校教育に関する理論と実践を融合した研究（教育実践学）の推進」「教員養成・研修の先導的モデルの構築」「教育研究成果の発信」を使命としている。第3期中期目標期間においては、教員養成・研修の高度化を最重要課題とする中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学修成果可視化のための取組を推進するとともに、キャンパス緑地において、ラーニングコモンズを展開するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 各自治体の教育委員会で実施される現職教員の年次研修が4年目以降に減少することから、4年目から9年目までの現職教員を対象とした研修プログラムの開発を兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）と連携して取り組むこととしている。さらに、開発した研修プログラムは、独立行政法人教職員支援機構の「平成31年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」に採択され、令和元年度に兵庫県立教育研修所と連携・協働し、開発した研修プログラムを試行実施し、令和2年4月から本格実施を行うこととしている。（ユニット「全国最大規模の教職大学院をさらに拡充し、卓越教職大学院へ」に関する取組）
- 令和2年度設置予定であった教員養成・研修高度化センターを学長のリーダーシップの下、2年前倒して、平成30年12月に設置している。教員養成・研修高度化センターは、独立行政法人教職員支援機構と提携して研修の共同開発・実施を行うとともに、兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会、教職アドバンスプログラム実施に当たって連携した兵庫県内6大学をはじめとする教員養成に係わる大学、全国の教職大学院並びに日本教職大学院協会と連携・協働して、教員養成の高度化に係る事業を推進することとしている。（ユニット「教師教育の実践と研究における全国拠点（ナショナルセンター）並びに地域拠点（リージョナルセンター）」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③女性の活躍・男女共同参画 ④事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 連合大学院博士課程の連携・拡充

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科においては、現在の兵庫教育大学、上越教育大学、岡山大学及び鳴門教育大学の4大学に、岐阜大学及び滋賀大学の2大学を新たに加え、構成大学を6大学として連合大学院博士課程の連携を拡充しており、令和3年度までに実現することとしていた目標を前倒しで行っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成29年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 附属図書館によるキャンパス緑地でのラーニングコモنزの展開及びSDGsへの取組

附属図書館内に附置されている教材文化資料館の展示ノウハウを活用し、新たな取り組みとして持続可能な開発目標（SDGs）をテーマとした野外図書館企画「Blue Class－青空の下で本を読もう－」を開催し、学生や附属幼稚園の園児など約200名が参加している。Blue Classでは豊かな自然に囲まれた地の利を生かし、キャンパス緑地において、ラーニングコモنزを展開するというアイデアを実践している。

○ 学修成果可視化のための取組

学修成果の可視化を進めるために、教育支援システムが保有する成績データを活用して、教員が成績分布図を確認できるようにシステムを改修するとともに、e-ポートフォリオ「CanPassノート」が保有する各学生の教員養成スタンダードの各項目に基づく単位修得状況データを活用して、学修成果を可視化する方策を整備している。また、授業の実施状況と学生の単位修得状況、教員養成スタンダードに対する学生の自己評価の関係を分析し、質の高い教育の担保に生かせるよう体制を整備している。